

無功德（むくどく） ～何の価値も、何の功德も無い～

意味：中国禅宗の初祖菩提(ぼだい)達磨(だるま)(～532)がインドからやって来た時、武帝(502～550)は次のように尋ねた。「私は熱心な仏教信者で、たくさんの寺院を造営し、経典を書き写し、さらに僧侶たちには布施もしてきた。それによって私はどんな功德を得ることができるであろうか。」それに対して菩提(ぼだい)達磨(だるま)は答えた。「何の功德も、何の価値もない。」

私達は何かをする際、とかく果報があることを期待しがちである。ところでその果報というものは、する人とされる人がいて、その両者の間に成り立つものである。しかし、一なる世界においては、する人も、される人も、「する」ということそれ自体も存在しない。そこにあるのは単に純粋な行為のみであるから、期待も失望もないのだ。このように理解できるようになれば、「無功德」の本当の意味が明らかになることであろう。